

「国際共生」概念の積極的な意義について

佐々木寛（新潟国際情報大学）

はじめに——「3・11」によって明るみになった次元について

1. 「国際共生」概念と比較すべき他の概念

- International Coexistence（国際共存） ex. 冷戦期「共産主義との共存」
International Agreement（国際同意） cf. treaty（条約）, protocol（協定）, covenant（盟約）
International Coordination（国際調整） ex. 「国連人道問題調整事務所」（OCHA）
International Cooperation*（国際協調・国際協力・国際協働） cf. 競争・覇権・単独行動主義
ex. cooperative security「協調的安全保障」, 「日本国際協力機構」（JICA）
International Partnership / Collaboration（国際協働・国際共同）…共通の目的。機能的役割分担。
International Assistance / Aid / Support（国際協力・国際支援）

～ 「国際共生」概念におけるアクターの多元性と包括性 ～

2. 2つの「共生」（kyosei）概念——<Symbiosis>と<Conviviality>

- ※「共生」=①「二種の違った生物が一緒に住むこと」（『新明解国語辞典』）
②「生あるものは、互いに、その存在を認め合って、ともに生きるべきこと」

- Symbiosis … “共棲” 共通の「危機」の認識
- Conviviality … “共歓” “協生” 「自律的で創造的な関わり合い（I.イリイチ）
「周辺」からの視点

3. 東アジアにおける「国際共生」の条件——<危機>から「共生」へ

- I.植民地主義と歴史認識問題・冷戦構造の残存と体制問題・アメリカの東アジア政策と軍事化
- II.リスク共同体としての東アジア・エネルギー問題と東アジア・経済共同体としての東アジア
- III.ネオ・リベラリズムを越えて・越境するローカルな「市民社会」・多元的地域主義（多文化共生）

- ◆ ケース・スタディ①： 東アジアの領土問題を考える
- ◆ ケース・スタディ②： 東アジアの核問題を考える

おわりに——生きとし生けるものの「共生」

人間や環境が織りなす<総体>としての歴史の次元 (F.ブローデル)

<主要参考文献>

- 黒澤満 編著 『国際関係入門——共生の観点から』 東信堂 2011年
- 千葉眞「東アジアにおける和と共生の実現のために」村上陽一郎・千葉眞編『平和と和解のグラウンドデザイン——東アジアにおける共生を求めて』 風行社 2009年
- ヨハン・ガルトゥング「補論・『共生』(kyosei) 概念について」村上陽一郎・千葉眞編『同上』
- 佐々木寛 編著『東アジア<共生>の条件』 世織書房 2006年
- Charles L. Glaser, *Rational Theory of International Politics: The Logic of Competition and Cooperation*, Princeton University Press, 2010.
- Paul Hirst, *War and Power in the 21st Century: The State, Military Conflict and International System*, Polity Press, 2001. (佐々木寛訳『戦争と権力——国家、軍事紛争と国際システム』岩波書店 2009年)
- John Paul Lederach, *Building Peace: Sustainable Reconciliation in Divided Societies*, United Institute of Peace, 1997.
- Fernand Braudel, *LA ME'DITERRANEE: L'HISTOIRE ET L'ESPACE LES HOMMES ET L'HE'RITAGE*, Flammarion, 1986. (神沢栄三訳『地中海世界』 みすず書房 2000年)